

大音生活にもっと“キラリ”を

MUSE

1 Vol.244
January
2018

音楽のある毎日はサイコー！

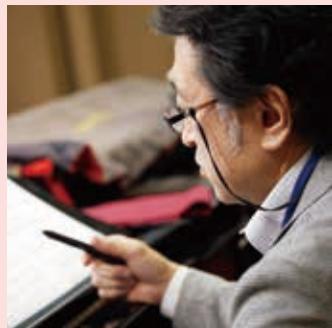


Music Days

音楽のある毎日。

レッスン、放課後、昼休み……。

大音の日常にある、音楽との接点にスポットを当てました。



MUSE | January 2018
Vol.244

音楽のある毎日。

学校法人 大阪音楽大学広報誌 MUSE | vol.244 2018年1月15日発行 <http://daion.ac.jp>
発行：学校法人大阪音楽大学 〒554-8555 豊中市庄内南町1-1-8 TEL:06-6334-2204 FAX:06-6334-2141
制作・編集：広報室 muse@daion.ac.jp 制作協力：印刷：(株)高遠オフィス

大阪音楽大学

CONCERT SCHEDULE

演奏会やオペラなど、大音関連のイベント。

大阪音楽大学主催公演

大阪音楽大学コンサート・センター
TEL:06-6334-2242

開催日時・出演者が変更になる
可能性があります

大阪音楽大学
大阪音楽大学短期大学部
第26回電子オルガン・コンサート
1/20(土) 18:00～ ●電子オルガン専
攻生 ●OH ●1000円(全自由席)

大阪音楽大学短期大学部
ポピュラー・コース・コンサート
1/27(土) 18:00～ ●ポピュラー・コ
ース専攻生 ●サンケイホールブリーゼ
●1000円(全自由席)

大阪音楽大学2017年度
ピアノ演奏家特別コース修了演奏会
2/2(金) 17:00～ ●ピアノ演奏家特別
コース4年生 ●OH ●無料(要整理券)

2017年度大阪音楽大学短期大学部
ダンスパフォーマンス・コース
第5回発表会
2/10(土) 18:30～ ●ダンスパフォー
マンス・コース専攻生 ●MH ●無料(要
整理券)

大阪音楽大学・大阪音楽大学短期
大学部 ジャズ・コンサート
2/15(木) 18:30～ ●ジャズ専攻生 ●
MH ●1000円(全自由席)

第29回大阪音楽大学学生オペラ
W.A. モーツァルト「コジ・ファン・トゥッテ」
(全2幕・原語上演・字幕付)
2/17(土) 15:00～、18(日) 14:00～ ●指
揮：森香織、演出：中村敬一、出演：配
役はオーディションにより選抜 ●OH ●
一般2000円、本学在学学生家族、65
歳以上の方、幸楽会会員、付属音楽院
会員、小・中・高校生1000円(全指定席)

大阪音楽大学短期大学部
第23回演奏会
2/24(土) 18:00～ ●指揮：小野川昭
博 ●OH ●1000円(全自由席)

大阪音楽大学 第49回演奏会
3/4(日) 18:00～ ●指揮：ヤン・ヴァ
ンデルロースト ●ザ・シンフォニーホ
ール ●A席(一般) 3000円、B席(高
校生以下) 1000円(全指定席)

大阪音楽大学短期大学部
ミュージカル・コース第7回公演

3/10(土) 1回目13:00～、2回目17:30～、
11(日) 1回目12:00～、2回目16:30～ ●
ミュージカル・コース専攻生 ●OH ●
一般2000円(当日+500円)、小学生
1000円

大阪音楽大学短期大学部
2017年度卒業演奏会
3/13(火) 時間未定 ●2017年度成績
優秀者 ●OH ●無料(要整理券)

大阪音楽大学 2017年度卒業演奏会
第1日:3/13(火)時間未定、第2日:3/14
(水) 18:00～、第3日:3/15(木) 18:00
～ ●2017年度成績優秀者 ●OH ●
無料(要整理券)

大阪音楽大学後援・協力演奏会

ソプラノとピアノによる《はな咲く》
2ndコンサート
1/28(日) 14:00～ ●Sop:石橋崇実、
伊藤幸江、臼井直美、奥田愛、奥山
里央、勝山幸菜、権優歩、木下葉
菜美、渋谷菜南、杉原葵、中土嘉志
代、長町香里、長谷川紗希、福岡さ
くら、本田有沙、山田恵、Pf:岩本
実姫、桑田真希、佐藤亜衣 ●阿倍
野区民センター小ホール ●2000円
●☎050-5218-5166(はな咲く)

まほろば新作歌曲による
第13回コンサート
2/12(月・休) 15:00～ ●声楽：田中勉、
小餅谷哲男、田邊織恵、藤原啓子、
新川和孝、野間直子、児玉祐子、田
中友輝子、中川正崇、喜多美幸、堀
口莉絵、安田旺司、ピアノ：田中紀子、
松永昌子、高木洋子、村上ひろみ、
園田文子、安田伸子 ●茨木市クリエ
イトセンター・センターホール ●2000
円 ●☎078-709-8197(南川弥生)

Chamber Sax!2018 サクソフォン
とピアノによる室内楽の夕べ
2/15(木) 19:00～ ●Sax:井上麻子、
山下真里子、大田黒翔子、飯守伸二、
Pf:藤井快哉 ●豊中市立文化芸術
センター小ホール ●一般3000円、
学生2000円(当日各+500円) ●☎
050-3636-8397(佐々木宗平)

土井緑とルーカ音楽教室による
音の贈り物コンサート
2/23(金) 19:00～ ●土井緑、梶尚
子、足立有里、中村容子、船越育香、
竹田早希、橋田歌寿美、橋本有名、
森松澄 ●ヤマハミュージック大阪な
んば店2Fサロン ●一般3000円、

会員/学生2500円 ●☎06-6531-
8155(ヤマハミュージックリテイリン
グ大阪なんば店)

増井一友 ギターコンサートVol.23
2/28(木) 19:00～ ●西宮市甲東ホ
ール ●1000円 ●☎050-3497-0294
(夙川ギター倶楽部)

上田浩子クラリネットリサイタルwith
藤井快哉 ～源流と派生～
3/9(金) 19:00～ ●Cl:上田浩子、
Pf:藤井快哉 ●兵庫芸術文化セン
ター神戸女学院小ホール ●3000円
(当日+500円) ●☎06-6459-9612
(大阪アートエージェンシー)

平成29年度
「若き音楽家たちによる音の祭典」
第5回公益財団法人 青山音楽財団
奨学生による成果披露演奏会
3/10(土)、11(日)、17(土) 各日とも15:00
～ ●平成29年度青山財団奨学生(奨
学金指定大学9校から45名を予定) ●
京都・青山音楽記念館 バロックザ
ール ●無料(要整理券、各回とも200名
まで) ●☎075-746-6938(公益財団
法人青山音楽財団 音楽事業推進室)

サクソフォンアンサンブルコンサート
～井上麻子とその仲間たち～
3/14(水) 19:00～ ●井上麻子、山下
真里子、神谷優子、安井友美、岩橋
由佳、岩崎由起子、河野早紀、松尾
文香、東條静、犬井有理菜、川村
恵奈、夏目有香 ●豊中市立文化芸
術センター小ホール ●一般2000円、
学生1500円(当日各+500円) ●☎
080-3131-0681(東條静)

大阪音楽大学ピアノ演奏家特別コ
ースの2年生によるジョイントコンサート
Vol.10.11

3/20(火)、27(火) 両日 19:00～ ●20
日:伊藤さつき、高松宛実、27日:山
野太士、吉村茉莉亜 ●ヤマハミ
ュジック大阪なんば店2Fサロン ●一般
2300円、会員/学生1800円(当日各
+500円) ●☎06-6531-8155(ヤマ
ハミュージックリテイリング大阪なんば店)

オペラ物知り講座inひこね Vol.11
「ばらの騎士」
4/8(日) 14:00～ ●お話：中村敬一、
出演：和泉万里子、福岡勲、端山
梨奈、森季子 他、Pf:内藤典子 ●ひ
こね市文化プラザ エコーホール ●
2500円(当日2800円)、前売限定
100組ペア4000円 ●☎0748-42-
6905(飯川)

紡ぐ音 高岡奈美・岡本佐紀子
デュオリサイタル
4/21(土) 15:00～ ●Vc:高岡奈美、
Pf:岡本佐紀子 ●音楽ホール「奏美」
●3000円 ●☎077-524-2334(音楽
ホール奏美)

幸楽会後援演奏会

森井美貴 ソプラノリサイタル
1/19(金) 19:00～ ●Sop:森井美貴、
Pf:藤井圭子 ●兵庫県民会館9F け
んみんホール ●1500円(全席自由)
●☎078-321-2002(兵庫県芸術文
化協会)

“紡ぐ音in宇部”岡本佐紀子・野田
芳枝ピアノコンサート
～フランスピアノ音楽のエスプリ～
1/21(日) 13:30～ ●Pf:岡本佐紀子、
野田芳枝 ●ときわ湖水ホール ●大
人1500円、中学生以下1000円 ●
☎0836-31-3285(野田芳枝)

大音ギターコンサートVol.6
～大阪音楽大学クラシックギター専
攻の在学生と卒業生による響演～
1/29(月) 18:30～ ●在校生：金本純
一、月岡伽耶、西永愛、西山典伸、
賛助：矢倉利一、蟹江真実、永田参
男、大西洋二郎、林久登、山口莉
奈 ●MH ●無料(予約不要) ●daion.
guitarconcert@gmail.com

フルートデュオコンサート
～新たなる巡りへ～
2/10(土) 14:00～ ●Fl:大井麻里衣、
奥田裕美、Pf:楠田陽子 ●日本基
督教団東梅田協会 ●大人2500円、
学生1500円(当日各+500円) ●
duoflute0210@yahoo.co.jp

Crayon vol.9 ウィーンの調べ
～オペレッタ「こうもり」&ウィーンの
作曲家たち～
2/11(日・祝) 14:00～ ●Sop:大賀千夏
子、Pf:藤本紀子、Vn:小山亜希 ●
久保惣記念美術館Eホール ●当日
500円(入館料) ●☎0725-54-1885
(大阪府和泉市久保惣記念美術館)

塚田孝行×西田早希
Saxophone Duo Recital
大阪公演:3/10(土) 15:00～、明石公
演:3/17(土) 14:00～ ●Sax:塚田孝行、
西田早希、Pf:岡部桂永子 ●大阪公
演：MITAHALL、明石公演：市民ホ
ール ●各会場500円(全席自由) ●duo.
saxophone.2018@gmail.com

OH：ザ・カレッジ・オペラハウス MH：ミレニアムホール ※必ず主催者発表のものと照合してご確認ください。

次号は
2018年
4月16日
発行予定です。

「MUSE」の住所・氏名変更の手続きについて>変更前と
変更後の住所や氏名(よみがな)を大学へお知らせください。
メール(muse@daion.ac.jp) かFAX(06-6334-2141)で
受け付けております。
※郵便局の転送サービスは期間が終わると配達されなくなります。

右記のSNS配信
サービスでも大音
情報をチェック
できます。

最新情報を配信中！
公式FB @ocm_i daion_insta

授業、指導、
各種講座——
学生の努力を
大学もバックアップ

竹田 和子
キャリア支援センター主事
[ドイツ語・教授]



今年度は、教員採用試験に5人もの学生たちが現役合格しました。教員採用の枠が減少に転じ、また音楽教員の採用枠が非常に小さい中で5人の合格はここ数年で最も多く、大変喜ばしいニュースです。

もちろん、採用試験合格は学生自身の努力のたまものです。教職課程の授業でしっかりと学習するほかに、多くの学生はキャリア支援センターや教職支援室で準備について相談し、場面指導などの勉強会に参加、また各種準備講座——例えば弾き歌い道場、集団面接や集団討論対策講座、自治体別の教員採用試験対策講座などを大いに活用して、早い時期から準備に取り組んでいました。教職の先生方も親身に指導されていたことと思います。

今回残念ながら合格に至らなかった学生たちも、試験は今年で終わりではありません。講師などを続けながら試験に再挑戦し、採用に至る卒業生は毎年20～30人を数えます。来年度もぜひ挑戦してほしいと思います。

今春から教壇に立つ皆さんは、もう学生ではなく、生徒たちを指導する立場になります。学校現場ではこれまで経験しなかったようなこともたくさん起きると思いますが、これまでの努力を生かして存分に活躍されることを祈っています。

- Q1** 教員を目指したきっかけは？
Q2 授業との両立など、苦勞した点は？ どうやって気分転換していましたか？
Q3 教員採用試験の受験に向けて利用した音大の施設や制度は？
Q4 どんな教員になりたいと思っていますか？
Q5 教員を目指す後輩にアドバイスをお願いします！



篠 原来 実
[ピアノ専攻・大4]
京都府・中学校

A1 楽器店でのピアノ講師のアルバイトで指導する楽しさを知ったことと、教職課程の授業を受ける中で教材研究の魅力や教員に対する無限の可能性を感じたからです。

A2 大学院試験の準備も並行して進めていたので、ピアノの練習時間と採用試験の勉強時間の時間配分に苦勞しました。通学時間や待ち時間に教員採用試験の勉強をするなどし、空き時間を有効活用しました。

A3 さまざまなサポートの中でも教職支援室の利用が特に多く、採用試験に関わるあらゆる面に対策をしていただきました。また、園田葉子教授には長時間にわたって二次試験の模擬授業についての相談に乗っていただきました。本当に感謝しています。

A4 特例制度*を利用して、4月から大音の大学院に進学します。大学院では音楽の可能性を幅広く学び、教員になった際、その素晴らしさを生徒に伝えていきたいと考えています。

*大学院進学者に対する特例…大学院で専修免許状を取得する場合、2年間採用を延期してもらえます

A5 私は「たとえ、やる気が出なくても、やる」をモットーに頑張りました。試験前は夜遅くまでの勉強の疲勞や、不安や緊張でメンタル的にも弱くなってしまうがちです。しかし、そんな時は周りの人に相談して、ポジティブに乗り切ってください。日々の努力はさまざまな形できっと報われます。



播 磨 実 咲
[ピアノ専攻・大4]
堺市・中学校

A1 中学時代に会った先生方の影響で教師を目指すようになりました。また、私と同じように学校の授業を通して音楽が好きなお子が増えてほしいと思ったからです。

A2 自分に合った勉強法や参考書を見つることが苦勞した点です。勉強する時と息を抜く時と、自分の中で計画性を持って行動することを意識していました。

A3 春休みに開催された勉強会は自分の知識や、勉強がまだまだ足りていないことを自覚するいい機会になりました。また、教職支援室とキャリア支援センターの方による模擬面接では、自分では気づきにくいクセを知ることができ、自分の考えを整理して自分自身を見つめ直すきっかけにもなりました。

A4 子どもたちにとって楽しい授業をすることで「音楽が好きだ」と言ってくれる生徒を増やしたいです。そして、生徒と真正面から向き合える教師になりたいです。

A5 試験内容を理解するためには多くの時間と自分に合った勉強法を見つけることが必要です。準備は今からコツコツと始めてください。何ごとも積極的に取り組む姿勢が大切だと思います。試験の勉強だけでなく、ボランティアやアルバイトなど、実際に教育現場に出向き、生徒と触れ合ってみることも必要だと思います。

厳しい競争の中、5人の学生が教員採用試験に現役合格！

昨年実施された「平成30年度教員採用試験」に5人の在学生在が現役合格。
試験対策での苦勞や採用後の抱負などをうかがいました。



河 田 茉 優
[ピアノ専攻・大4]
大阪府・支援学校

A1 大学3年生の時、園田葉子教授(教職科目担当)から支援学校で教員をされていた時の話を聞き、先生のキラキラした表情や実際に参加したボランティアで子どもたちの笑顔を見て「私も支援学校のみんなと音楽がしたい!」と感じたからです。

A2 大音では特別支援の免許が取得できないので、専門の勉強方法が分からず苦勞しました。友だちとカラオケに行ったり、おいしいものを食べたり、適度に気分転換もしていました。

A3 キャリア支援センターの模擬面接では、何度も練習することで、自分の考え方が定まっていくことを実感。教職支援室の自主勉強会では、同じ目標に向かって頑張る仲間を見つけることができ、非常に心強く思いました。

A4 子どもたちと一緒に音楽を楽しみながら、ともに成長していける教師になります！

A5 ボランティアにたくさん参加しよう！勉強も大切ですが、学校関係のボランティアで実際に子どもたちや先生方と関わった経験が自分にとっては大きな糧になりました。「勉強したい!」という強い気持ちがあれば、応援してくれる人が絶対います。謙虚で前向きな姿勢と、感謝の心を忘れず頑張ってください！



大 竹 か れ ん
[ピアノ専攻・大4]
堺市・中学校

A1 音楽が好きで周りの人と知識を共有することが好きだったので、高校生のころから音楽の教員に憧れていました。また、さまざまな報道を通して、教育に関心があったことも理由の一つです。

A2 実習や教員採用試験が不安でピアノに手をつけられないことが多かったです。計画を立てて、安心してピアノを弾ける時間を確保することを意識していました。勉強がはかどらない時は、ぼうぜやカフェなど人目のある所へ場所を変えたり、行き詰まったら思い切って休んだり、メリハリも大事にしていました。

A3 教職支援室では分からないところを教えてもらったり、何度も模擬面接をしてもらったりしました。資料も豊富にあり、説明会や勉強会の機会もたくさん設けてくださるので、そこで同期の輪を深めることができたこともうれしかったです。

A4 音楽が大好きな子どもをたくさん育てたいです。自分と関わった子どもたちが自信を持って心ゆたかに生きていけるように、一人ひとりをサポートしていきたいと考えています。

A5 いろいろな経験から学びを得ること。また、日々のニュースや身の回りの出来事に対して、しっかりと自分の意見を持つことが大事だと思います。



黒 田 茜
[音楽器専攻(ユーフォニアム)・大4]
大阪府・中学校

A1 音楽に携われる進路を考えた時、子どもたちと関わり合いながら、一緒に学んでいくことができる教員に魅力を感じたからです。

A2 楽器の練習と試験対策の両立には苦勞しました。大学図書館の開館中は勉強、閉館後は練習というように、勉強に使う時間と練習に使う時間を明確に分けて取り組みました。勉強をつらと思ったことはありませんが、飽きてきた時には自分の好きな音楽やラジオ番組を聴いたり、小説や漫画を読んだりして気分転換していました。

A3 教職支援室です。面接対策では他の自治体の過去の質問を知ることができ、自身の回答例を考えるヒントになりました。

A4 中学生の記憶にずっと残るような授業ができる先生になりたいと思います。大音で学んだ知識や技術を生かし、楽しく学べる授業ができるように頑張ります。

A5 教職教養を理解することも必要ですが、音楽科目の勉強もしっかりすることが大切。実技科目は演奏力だけでなくソルフェージュの力をつけることで初見での演奏にも慣れると思います。最も大事なものは「教員になりたい」という強い思い。その気持ちがなければ、何をしてもつらいと感じると思います。強い意志を持って、自分の行動に責任を持てることが必要だと思います。

指揮者

として

現在は年に5〜6回、単発の依頼を受けて指揮をしています。

多くの聴衆をひきつけるパフォーマンスでは指揮専門の方にはないませんが、楽譜を読むスキルという点では作曲家が指揮をするメリットは大きいと思います。また、指揮を通して「楽譜にこう書けば、こう鳴る」と体感できることは、その後の作曲活動にもいい影響をもたらしていると思います。

自作曲であっても、そうでなくても指揮に対する姿勢は変わりません。クラシックの曲なら自分なりの解釈で演奏者に伝えまし、自作曲でも曲を作った時点とは解釈が変わっていることもあるので、自分が書いている指示を守らないこともあるぐらいです(笑)。ある意味、客観視して他の人の曲のように指揮しているつもりです。



楽譜に書いた音を耳で聞く。

指揮を通した体感が、
作曲活動の糧に。



三木ウィンドフィルハーモニーの定期演奏会(2017年12月9日に開催)に向けた演奏指導。この演奏会では、中高生の学校生活をテーマに書いた自作曲「[ウエストミンスターの鐘]による幻想曲」も演奏され、客員指揮として自らタクトを振った。



作曲家

として

吹奏楽に熱中していた高校時代、当時の恩師から勧められたことをきっかけに大音の作曲専攻に入学しました。元々、オーケストラのスコアを見ながらレコードを聴くのが好きだったこと、そして吹奏楽部でさまざまな楽器の奏法の知識があったことが作曲に役立ちました。大音では田中邦彦先生(2004年退任)に師事。田中先生から教えていただいた対位法と、「揃っていることが大嫌い」という先生の自由な思想が現在の曲作りの基礎にもなっています。

依頼を受けて作る曲なら依頼主とのコミュニケーションからヒントを得たり、歌詞のある曲はその世界観から絞り出したり、曲作りのインスピレーションはさまざまなところから。「高昌帥らしい曲」を意識したことはありませんが、演奏する方にはどこか伝わっているかもしれませんね。

数多くの曲を作ってきた高教授。中でも思い入れの強い曲を挙げていただきました。

吹奏楽のための協奏曲(大阪音楽大学創立100周年記念委嘱作品)

母校の100周年という大きな節目に委嘱いただいたということはものすごく名誉なこと。作曲家活動20年という節目の年、私にとってもキャリアの集大成として書きました。

コリアンダンス

30代に突入して作曲家としてまだまだ不安だらけな時期に、母校である大音から初めて吹奏楽の委嘱をいただき、大きな励みになりました。



「どうしてこう書いた?」「ここ、どう思う?」レッスンでは学生に問いかけながら一音、一小節を確認していく。「学生が意図して書いた音なのか、たまたま気まぐれで書いた音なのかを確認しています。学生自身が推敲するきっかけになってくれればと思っています」

大学教員

として

“商業音楽”に特化した作曲家を目指すミュージッククリエイション専攻とは異なり、作曲専攻・コースはやはり廃れない音楽を伝統的な技法に則って学んでいくことにポイントを置いています。

作曲の授業は、どの授業であってもほぼマンツーマン。限りなくレッスンに近い形態なので、丁寧に指導できることが特長です。私の授業では基礎を重視しながら、できるだけ学生の自由な曲作りを尊重しています。

100年という大学の歴史に裏打ちされた伝統と、クラシックから邦楽まであらゆる楽器、専攻が揃う環境が大音の魅力。年に2回「作品発表会」を開催し、自作曲を他専攻・コースの学生に演奏してもらう機会があります。自分が書いた曲が実際の音になる——この経験は、学生にとって大きな学びの機会になっています。

scene 1

Professor Koh

— 高昌帥教授の日常 —

(By)

高 昌 帥 [作曲・教授]

Music Days — 音楽のある毎日。

「吹奏楽のための『ワルツ』」が2018年度の全日本吹奏楽コンクールの課題曲になるなど、作曲家として国内外で高い評価を受ける高昌帥教授。大音でのレッスンからアマチュア楽団の客演指揮まで、多方面で活躍する高教授の日常を紹介します。

少人数の授業と

丁寧なレッスンが特長。

基礎を重視しながら、
自由な発想も尊重。



「揃っていることが大嫌い」

恩師の自由な思想が

曲作りの基礎に。



新作「ソプラノとヴァイオリンのための三つの回文」の初演に向けた音合わせ。「しんぶんし」のように、始まりからも終わりからも読むことができる回文で書かれた歌詞に苦戦しながらも、和やかに進む。

田中智基さん(ピアノ専攻・大4)に聞きました。

藤井先生との出会い

高校時代に受講した体験レッスンです。アーティスト写真から優しさがにじみ出ていましたが(笑)、男性の先生に教わるのは初めてだったので緊張感もありました。

大音に入学した理由

体験レッスンでのご指導が楽しく、丁寧に分かりやすかったこと。何より先生の人柄に魅かれて、長いスパンで藤井先生に教わりたいと感じました。

印象に残っている指導内容

「与えられた仕事は全部引き受ける」ということ。譜めくりやステージのお手伝いなど、普段のピアノのレッスンだけでは得られない経験や、人との出会いといったさまざまな機会をいただいています。

教員も学生も同じ“音楽家”。

フラットな視点で刺激し合いながら、
ともに成長していきたい。

レッスン終了後のひととき。演奏に関する相談から、学生の間ではやっているスマホアプリまで、幅広い話題で盛り上がる。「とても親身になって話を聞いてくださるので、いろいろな相談がしやすく学生から人気も絶大。先生の人柄によるところが大きいと思います」(田中さん談)

教員は少し人生経験が豊富なので、「音楽家」というくくりで見れば、教員も学生も同志。学生から教えられることもたくさんありますし、フラットな視点で相互に刺激し合いながら成長していける、そんな関係が理想です。

指導の中で心がけているのは「学生の前に立ちたくない」ということ。学生の自発的な意思は尊重しますし、やろうとしていることの助けもします。うまく弾けない時に叱咤することはあっても「やりたいことをさせてもらえない」という環境だけは作りたくないと思っています。ただ、クラシック音楽を

scene 3

After Lesson

教員と学生のステキな関係

By

藤井 快哉 [ピアノ・准教授]

演奏する上では、作曲家とその作品を尊重することも大切です。学生が進もうとする路線が本来の作品の世界観からずれていたら修正する役割、言わば、軌道修正言であらいたいと思っています。

日ごろ、学生には「広い意味での音楽家であれ」と伝えていきます。シェアして楽しむものが「音楽」だとすれば、大音で学んだ学生は卒業してから何らかの形で発信していかなければなりません。プロの演奏家、会社員や専業主婦など、卒業後に置かれる環境は一人ひとり異なりますが、どんな立場であっても音楽を通して日々の暮らしを彩り豊かなものにできる人になってほしい。そのために、まずは在学中からさまざまな人と出会い、ピアノ以外の世界にも視野を広げることが大事にしてほしいと思います。



「打楽器アンサンブルコンサート」に向けた練習

現在は「打楽器アンサンブルコンサート」(2017年12月17日に開催)に向けた練習をしています。

4チームに分かれたアンサンブル部門は少人数編成のため、一人ひとりがしっかり叩かなければ絶対に良い音にはなりません。お互いの音をよく聞き、合わせる技術が求められます。

一方、大編成部門ではオーケストラの曲を約30台のマリンバで演奏します。たくさんの音を一つにまとめながら、色彩豊かなオーケストレーションの理解と再現に努めています。大編成部門ではコンミスを務めさせていただきますが、「私がリーダー」というよりは、4年生全体で大学生活の集大成となる最高の音を求めて取り組んでいます。



さまざまな演奏を並行して
練習する大学の授業。
緩急のあるレッスン、
仲間との切磋琢磨で
幅広い演奏技術を習得。



scene 2

Lesson

—○ 打楽器の授業 ○—

By

柳田 菜津美 [打楽器専攻・大4]

小学生時代のアンサンブルクラブで出会った打楽器。中学、高校も吹奏楽部で打楽器を演奏する中で「もっと専門的に学びたい」と思い、大音に入学しました。

時間をかけて同じ曲を練習する吹奏楽部とは違い、大学のレッスンではオーケストラや吹奏楽、ソコなどさまざまな演奏を並行して練習しなければなりません。打楽器専攻の学生は練習熱心な人が多く、常に誰かが練習しているという環境にいると「自分より上手だな」と同級生を意識するようになりますし、「私もやらなきゃ」という気持ちにもなります。仲間でありながらライバルでもある——学生同士が刺激し合う雰囲気は、大音に来て良かったと感じる部分です。

個人レッスンを担当してくださっている葛西友子先生は高校3年生から習い始めて5年。演奏の技術だけでなく、礼儀なども含めてさまざまなことを教えていただきました。レッスンでも「こう叩きなさい」と押し付けられるのではなく、私の意思や言葉を尊重して一緒に考えてくださっています。厳しい時は厳しく、時にはユーモアも交えながら、緩急のあるレッスンで成長させていただいたと感じます。

Sound School

—○ 小学校での演奏指導 —○

(By)

森脇佑季 [管楽器専攻〈フルート〉・大4]



11月8日に市立刀根山小学校で行われた合奏指導。1週間後に迫った音楽会に向け、リコーダー、鍵盤ハーモニカ、打楽器の各パートを3人の学生が指導しました。



「この曲の映画見たことある人!」子どもたちの目線に立った問いかけで、楽しく親しみやすい雰囲気レッスンを心がけています。

※サウンドスクール…豊中市教育委員会と大音が連携協力し、情操教育の一環として、音楽の素晴らしさに触れる機会を児童・生徒へ提供するため、豊中市のこども園や小・中学校へ大音の学生を中心に卒業生や教員が出向き、出張演奏や演奏指導などを行う。2016年度は小・中学校、邦楽、こども園の3部門で76件、延べ112日実施した。

子どもたちへの指導を通し、
自分自身の
スキルアップも実感。



大学3年生からサウンドスクールに参加し、出張演奏や中学校の吹奏楽部指導などを担当しています。

はじめのころは出張演奏のMCですごく緊張していました。子どもたちは演奏技術だけではなく、話し方や内容によって、どれだけ心をひきつけられるかも重要。興味を持ってくれているか、退屈していないかと反応を見ながら進行していく部分が面白くもあり、難しいところでもあります。

指導で一番重視しているのは基礎をしっかり伝えること。中学生はクセのある吹き方や、間違った吹き方をしていたりすることもあるのですが、高校生や大人になってから苦労しないためにもきつとりと直すように指導しています。また、音楽は「楽しさ」や「悲しさ」を表現することによって面白

くなってくると思うので、正確に楽譜をなぞるだけでなく「楽しく吹いてみて」「悲しく静かな夜を想像して」など、曲の雰囲気や合った表現を意識するようにも指導しています。

人に教えるためには自分が技術を習得していなければ正しく伝えることができません。MCも演奏技術も、サウンドスクールの経験を通して私自身がスキルアップさせてい

scene 4

Lunch Time

—○ 後輩と一緒にランチタイム —○

(By)

竹田陽一 [声楽専攻・大4]

オペラの打ち合わせなどで集まる機会が多いからか、声楽専攻生は空き時間になると自然にぱうぜ(学生サロン)に集まってくる。私自身も授業の空きコマや昼休みや放課後はたいていぱうぜに来て稽古の予習中でも暗譜に時間を割いています。

オペラでは「相手が歌っている間にどう振る舞うか」「どれぐらいの尺があるか」といったことを常に意識する必要がある。そのためには暗譜して楽譜の内面まで読み込むことが求められます。3〜4年生になり、オペラや歌曲の授業が増えるのと必然的に暗譜すべき量も増えたため、ぱうぜで過ごす時間がとても貴重なんです。

また、ぱうぜは稽古で張り詰め

た気持ちを切り替える場所でもあります。どの専攻でもそうだと思いますが、頭の中が音楽でいっぱいになってしまおうと結果的に自分を苦しめることになってしまいます。集中して暗譜をする日もあれば、仲間との取りとめもない話を楽しい日も作る——自分で上手にコントロールしながらバランスをとることも心がけています。

高校時代、テレビで見たオペラに衝撃を受け、「いつかイタリアで学び、オペラ歌手として生きていくこと」が目標になりました。大音卒業後はイタリア・ミラノへの留学を予定しています。プロとしてオペラの舞台に立つという夢実現のため、新たな一歩を踏み出します。

ぱうぜで過ごすひときは、
ONとOFFをコントロールする大切な時間。

同級生だけでなく先輩・後輩とのつながりも強いのが声楽専攻の特徴だと思います。空き時間に稽古を振り返り「ここが良かった」「こうした方が良いんじゃない?」とアドバイスし合うことで、絆が強まっていくを感じています。

scene 7

Relax Time

—○ 女子寮の仲良しセンパイ＆コーハイ —

(By)

水谷 茜(右)

[管楽器専攻(サクソフォーン)・大4]

小田嶋 香世(左)

[ピアノ専攻(ピアノ演奏家特別コース)・大1]

センパイ・水谷さん

気持ちを切り替え、
リラックスできる場所。

コーハイ・小田嶋さん

寮生活だからこそ

出会えた、大切な同級生。

水谷 私は滋賀県、小田嶋さんは岐阜県から大音に入学したんだけど、寮生活を選んだのはどうして？
小田嶋 知り合いがいらない大阪で、寮生活なら友達も作りやすい環境かなと思ったんです。実際に住んでみると、食事以外の時間は一人部屋での生活なので、シェアハウスで暮らしているような感覚ですね。
水谷 セキュリティーもしっかりしているし、先輩や同級生と一緒に暮らせることには安心感もある。何より自炊しなくていいのが大きいよね(笑)
小田嶋 もし一人暮らしだったら、食事はおろそかになっていただろうなと思います。門限など寮ならではの規則もありますが、ルールがあるおかげで自立した生活ができているとも感じます。
水谷 学校で練習に没頭する分、寮に帰ってからは「音楽から離れたい」って思うことってない？ 私の部屋は友だちから「世界が違う」って言われるぐらい自分の趣味の世界になっている(笑)その中で気持ちを切り替えるようにしているんだけど、小田嶋さんはどうやって気持ちを切り替えている？
小田嶋 平日は学校の練習室が使える20時30分いっぱいまで練習しているの、寮に帰ってから練習することはないですね。翌日に演奏を控えている日は練習しますが、部屋の中ではピアノの椅子がスイッチみたいな感じなんです。座ったらオンになり降りたらスイッチオフ。ベッドの上が

一番リラックスできるスペースです。
水谷 全部で4棟ある寮では、フロアごとの学年や専攻の学生との交流はある？
小田嶋 同じフロアにいるもう1人の1年生とは仲がいいですね。彼女は電子オルガン専攻なんですけど、前期試験前に学校で試演会をして、お互いの演奏を聴き合いました。今度、電子オルガンのコンサートを聴きに行く約束もしたんですけど、ピアノ専攻と電子オルガン専攻って学校ではなかなか接点がないので、寮に入っていないから知り合うこともなかったらどうなっていると思います。
水谷 気軽に部屋を行き来できることは寮の良さだね。部屋以外でも、食堂と一緒に読書をしている学生やYouTubeを見ながら演奏技術について語り合っている姿を見ることがある。私は入寮当初、演奏のことだけでなく学校のことも、人間関係など気になることはなんでも先輩に相談していたなあ。
小田嶋 先輩方とは、寮の新人生歓迎会が初めてお話をする機会でした。自己紹介から始まってフロア対抗のゲーム大会などで距離が縮まり、うれしかったんです。その後も寮生活に関する細かいことを全部教えていただいたので、とても助かりました。
水谷 寮は学校での緊張から解放されてくつろげる場所。最低限の上下関係は必要だと思うけど、あまり堅苦しくなく、ゆるやかで居心地のいい場所にしてほしいね。

学生寮(豊南寮)

大学から南東へ約1,300m。AからDまで4棟あり、遮隔地から入学した女子学生が入寮できる。防音設備が整っているため22時まで楽器の練習が可能。セキュリティーも万全で家庭的な雰囲気のある寮。



YouTubeでも配信中。
ぜひチェックしてください!!!

AKANE CHANNEL

scene 6

After School

—○ バンド仲間とライブハウスで練習 —

(By)

山下 ほのか

[ミュージックコミュニケーション専攻・大1]

和太鼓との出会いは中学1年生の時。学校の和太鼓部の演奏を見て「カッコいいな」と感じたことがきっかけでした。現在活動中のバンド「暁音(あかね)」も当初は純粋な和太鼓演奏で施設や地域のお祭りなどの依頼を受けて演奏していたのですが、和太鼓だけではなかなか聴いてもらえないことがもどかしくて「もっといろいろな人に和太鼓の魅力を知ってもらいたい」という思いから、和太鼓とテクノ、ダンスミュージックを融合させた今の形態になっていきました。ライブでは全身を使って打つソロが見せ場。お腹にズンと響く和太鼓ならではの迫力を目と耳で感じてほしいです。

バンド活動と並行してミュージックコミュニケーション専攻に入学したのは、アーティストとして活動する上で、ステージの裏側の世界を知る大切さを感じたから。入学してまだ1年。イベントを0から考える機会は少ないですが、企業や行政からの依頼を受けて企画するイベントに関わり、当日までの流れや、本番の段取りを学ぶことができるのはすごくためになっています。

大音には数多くのミュージシャンが通っています。学内のさまざまなバンドを集めて大きな「フェス」を開催することが在学中の目標です。



2017年9月18日発売

1st アルバム

『No one does』

8曲入り 2000円(税別)

暁音公式サイトにて発売中

「和太鼓の魅力を伝えたい」
演奏技術を磨きながら、
ステージの裏側を学ぶ。



和太鼓部の先輩・後輩というメンバーで2016年1月に結成した「暁音」。2017年に開催された「EMERGENZA JAPAN」で大阪3位になりプロデビュー。ライブハウスへの出演だけでなく、路上ライブなどでも迫力のある演奏を届けている。



02



オーケストラの醍醐味 力強く、繊細に表現 大阪音楽大学第60回定期演奏会

12月6日(木)ザ・シンフォニーホールで、第60回大阪音楽大学定期演奏会が開催されました。今回タクトを握ったのは、国内外数多くのオーケストラを指揮し、2002年より本学ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団常任指揮者、08年4月より同団名誉指揮者を務める山下一史氏。演奏会は山下氏の情熱的な指揮と大音の力強い音色で華やかに幕を開け、続くラフマニノフのピアノ協奏曲では、田村響特任講師が力強さと繊細さを兼ね備えた美しいピアノで観客を魅了しました。サン＝サーンスの交響曲では、本学の卒業生で2016年7月に第20回パッサン国際コンクールのオルガン部門にて日本人初となる第1位と聴衆賞を受賞した冨田一樹氏を迎え、その堂々たる音色は壮大な交響曲を見事に表現し、会場全体を包み込みました。オーケストラの醍醐味が感じられる豪華なプログラムは万雷の拍手で幕を閉じました。

03



教員・学生・卒業生有志が揃い踏み 邦楽特別演奏会

邦楽専攻設置50周年を記念した「邦楽特別演奏会(第40回邦楽演奏会)」が11月17日(金)ザ・カレッジ・オペラハウスで開催されました。古典作品から現代曲までバラエティー豊かなプログラムで、前半は宮城道雄の「編曲八千代獅子」、在原勾当の「松の寿」、長沢勝俊の「樹冠」。「松の寿」は菊原光治客員教授と、「樹冠」は三橋貴風客員教授と共演しました。続く後半に武蔵野男子長作の「対流」。この作品は1981年第4

回邦楽演奏会で初演されたもので、今回は改訂初演となりました。ピッコロ、尺八、箏、打楽器と弦楽5重奏のための作品で、邦楽器と洋楽器が見事に融合していました。最後は、宮城道雄の箏独奏部付き合唱合奏曲「日蓮」。指揮に本山秀毅教授、独唱に田中勉教授、箏独奏に片岡リサ講師、また箏と尺八に邦楽卒業生有志も加わり、総勢60人を超える演奏は圧巻で、満員の客席からはスタンディングオベーションが送られました。

01



第53回オペラ公演 「偽の女庭師」 大音の総力結集し、聴衆を魅了

第53回オペラ公演「偽の女庭師」が11月3日(金祝)、5日(日)にザ・カレッジ・オペラハウスで上演されました。近年注目されているモーツァルト青年期のみずみずしい作品が、大音の総力によって体現された貴重な2日間となりました。オーケストラピットを使わない斬新な舞台セット、最新の技術を駆使した映像による背景演出は観客の目を奪い、数々の舞台上で活躍中の歌手たちによる豊かな歌声と演技は、オペラの世界を存分に魅せてくれました。公演は両日ともに天候にも恵まれ、盛況のうちに終了しました。今年から始まった「ディレクターズチョイスシリーズ」、来年は演出家の栗園淳客員教授へと引き継がれます。



09

NEW RELEASE

大音関係者がリリースした
CD・本・楽譜など。

CD



蔭山 晶子
(04年度大卒・クラリネット)

椿姫 ファンタジー

2700円(税抜) 株式会社フォンテック
タワーレコード、amazon 他

CD



青柳 いづみこ(教授・ピアノ)
ストラヴィンスキー
春の祭典・ペトルーシユカ
(ピアノ連弾)

オープン価格 株式会社アールレゾナンス
タワーレコード、amazon 他

CD



北浦 洋子
(特任教授・ヴァイオリン)

貴志 康一
ヴァイオリン・ソナタ2667円(税抜) コウベレックス
タワーレコード、amazon 他

BOOK



橋本 龍雄(教授・教職)

「先生力」をつける！
…待ち遠しい音楽授業のために！2400円(税抜) 教育出版
全国の書店

11

NHK 交響楽団首席トロンボーン奏者
新田幹男氏特別講義

11月13日(月)、本学卒業生でNHK交響楽団首席トロンボーン奏者、新田幹男氏の特別講義が行われました。4つのグループがレッスンを受け、昨年度の吹奏楽演奏会の指揮者フィリップ・スパーク氏の作品や、中澤道子講師の作品などを指導していただきました。学生の前に立ち、吹き方などを指導する場面もあれば、実際に学生のアンサンブルの中に混ざって演奏してくださる場面もあり、日本を代表するトロンボーン奏者の演奏を間近で聴き、学生たちは大きな刺激を受けていました。

10

きらびやかな演出で華添える
「OSAKA光のルネサンス2017」でミュージカルショー

「OSAKA光のルネサンス2017」開催中の12月15日(金)、大阪市中央公会堂正面でミュージカル・コース1年生、2年生の選抜メンバーとDAION座*によるミュージカルショーを開催しました。クリスマスソングやディズニー作品、DAION座のオリジナル曲などを披露。だんだんと空が暗くなっていく中、光に照らされた大阪市中央公会堂正面をバックに透き通った歌声と華麗なダンスで観客を魅了し、20分間のショーはあっという間でした。終わるころには空はすっかり暗くなり、最後には映像でスノーマンも登場。きらびやかなミュージカルショーで「OSAKA光のルネサンス2017」に華を添えました。

*DAION座…大阪音楽大学短期大学部音楽科ミュージカル・コースの上部団体。

大阪音楽大学短期大学部音楽科は2019年度以降の「ダンスパフォーマンス・コース」の学生募集を停止いたします。

編集後記

大音の人たちは、みんなどんな毎日を送っているのだろう……。特集では、学生から教員の皆さんの、レッスンだけでなく休憩時間や放課後まで、さまざまなシーンをご紹介します。緊張感のある時間あれば、リラックスした時間もあり、それぞれ音楽にあふれた毎日を送られている、充実した大学生活を垣間見ることができました。

05

大阪府×大阪音楽大学共同プロジェクト
水素エネルギー×音楽
ライブイベント開催

11月18日(土)、中之島水上劇場(大阪市北区)でミュージックコミュニケーション専攻が水素(H2)×音楽のライブイベント「H2+J→H2Brass」を開催しました。水素エネルギー関連産業の振興に取り組んでいる大阪府から「水素エネルギーについて音楽を通して広く知ってもらいたい」と依頼を受け、ミュージックコミュニケーション専攻の学生が吹奏楽とHip-Hopを使って「水素」をイメージする楽曲を作成。音響などの電気系統は、水素燃料電池自動車(FCV)から供給し、大阪音楽大学生による吹奏楽の演奏とDJに、ゲストラパーのBlue3さんのパフォーマンスが加わり、これまでにない斬新な企画となりました。

04

新学長に
本山秀毅教授

大阪音楽大学・大阪音楽大学短期大学部は2017年11月27日、任期満了(2018年3月31日)に伴う学長選挙を行い、新学長に本山秀毅教授を選出、同日の理事会で正式決定しました。任期は2018年4月1日から4年間です。

06

キラリ★輝く大音の星

各種コンクールで受賞された皆さん。

松浦 綾子
(15年度院修)第3回
豊中音楽コンクール
声楽部門
大学・一般の部
第3位

2017年7月2日
大阪音楽大学
ザ・カレッジ・オペラハウス



中村 理子
(15年度大専修)
第4回鳥取県
クラシックアーティスト
オーディション
声楽部門
最優秀賞

2017年10月29日
倉吉未来中心大ホール

佐藤 有希子
(大2・クラリネット)第11回
神戸新人音楽賞
コンクール
管弦打楽器部門
優秀賞

2017年9月30日
神戸文化ホール・中ホール



梅北 千香(大4・声楽)

第5回あおによし
音楽コンクール
プロフェッショナル
Section 声楽部門
音大生・院生・卒業生の部
総合第1位、
おおよびハンナ賞

2017年11月19日
大和高田さんかホール

吉村 茉莉亜
(大2・ピアノ演奏家特別)第16回宝塚ベガ
学生ピアノコンクール
大学生部門
第3位

2017年10月8日
宝塚ベガ・ホール

細田 知佳
(大3・ピアノ)

第8回ヨーロッパ
国際ピアノコンクール
in Japan
大学A部門自由曲の部
銅賞

2017年11月25日
東京芸術センター
天空劇場

池田 佑香
(院2・ピアノ)

第19回エウテルペ
国際音楽コンクール
ピアノ部門
第1位および
グランプリ(Assoluto)
Morena Mazzilli賞

2017年10月20日～29日
イタリアコロート

植田 翔子
(大2・ピアノ)

第8回ヨーロッパ
国際ピアノコンクール
in Japan
大学A部門自由曲の部
銅賞

2017年11月25日
東京芸術センター
天空劇場